

令和5年度第1回米子市まちづくり活動支援交付金審査委員会 議事録（概要）

○開催日時 令和5年5月30日（火） 午後1時30分から午後4時

○開催場所 米子市役所本庁舎4階 402会議室

【各申請団体プレゼンテーション概要】

申請団体1

温泉三区自治会

事業名

とんどさんにおける縁日開催

事業概要

皆生温泉神社で例年正月に行われる「とんどさん」において、祭事と並行し、イベントを開催する事で、地域の各団体（皆生温泉旅館組合・皆生温泉観光株式会社・子供会・自治会関連2団体）との調和を深め、児童から高齢者・地域事業者まで、広範囲の世代が顔を覚えあう事と、児童に神社の伝統を承継していくきっかけを創る。

《内容》

- ・皆生温泉100周年の際に様々なイベントを実施してきたが、旅館組合、自治会、子ども会、育成会等、地域の各団体の活動が縦割りであり、それぞれの頑張りが見えにくい状態だった。
- ・1月に旅館組合、連合自治会合同で神社の祭事であるとんどさんを実施した。その際、地域の事業者、自治会関係者等が協働で、世代をこえて顔や名前を覚え合い、近所で出会った時に挨拶できる関係づくりを目的に餅まきを行った。
- ・各団体が協力して行うイベントが今までなかったこともあり、想定以上に盛り上がり、今後こういった取組を継続してほしいという声が多数あがり、事業の計画に至った。
- ・共働きの増加等、ライフスタイルの変化により自治会加入率も低下している中、損得ではなく地域を大切にしていく必要があると考えている。
- ・今回の事業をきっかけに、地域事業者と地域の関りを増やすとともに、各団体の活動を見えるようにし、顔を覚えあい、双方向の信頼関係、協力関係を構築し、継続的に地域活動を盛り上げていきたい。

申請団体2

米子ジャズ実行委員会

事業名

JAZZを通した賑わい創出事業

事業概要

「ジャズで米子の街を賑やかに！」を理念とし、音楽文化の裾野を広げるための初心者向けワークショップを行い、その成果発表の場を盛り込んだジャズフェスティバルを開催することで、賑わいの創出と音楽であふれる街づくりの現実を図る。

《内容》

- ・米子がいつも音楽であふれるまちにすることを目的に、2014年から市内の文化施設や商業施設を中心にジャズフェスティバルを開催してきた。
- ・以前、善五郎蔵、DARAZ FM、笑い庵でフェスティバルを実施した際には、普段商店街を訪れない方々も来られ、大変好評だった。
- ・コロナ禍の影響により、3年間の活動自粛を余儀なくされたが、活動再開に際して、これまで以上に音楽による賑わい創出、音楽であふれるまちを実現するためには裾野を広げる活動が必要と考え、今回の事業の計画に至った。
- ・初心者向けワークショップを開催し音楽文化の裾野を広げるとともに、米子駅のがいなロード開通に合わせ、米子駅エリアの文化拠点である文化ホールで発表の場を盛り込んだジャズフェスティバルを開催することで、駅周辺の賑わい創出を図る。

申請団体 3

彦名校区自治連合会

事業名

彦名地区の安心・安全マップ作製事業

事業概要

安心・安全に暮らせる町づくりをするため、自治会、民生委員等と協力して「見守りマップ」を作成する。

《内容》

- ・高齢者の見守りは、在宅福祉員、民生委員がそれぞれ活動を行っているが、各組織で名簿の共有が出来ていない。自治会長、在宅福祉員、民生児童委員が共通認識をもち、防災意識を高め、連携を図るためにマップが必要と考え、事業の計画に至った。
- ・彦名地区では、今年度の10月に地区全体の防災連合会を立ち上げる予定としており、災害弱者に対して、在宅福祉員、自治会長、近隣住民が協力して避難の支援ができる体制を整えるためにマップが必要と考えている。
- ・個人情報に繋がるデリケートな部分もあるが、防災も、見守りも公民館が拠点となり、各自治会長、役員と情報共有を行い、本当に緊急時に動ける体制としたい。
- ・将来的には高齢者だけでなく、子ども会等とも連携し、乳幼児のいる家庭等、要配慮者も対象にマップを作っていきたい。
- ・自治会長は2年程度で変わるが、情報と防災意識を引き継いでもらい、安心で安全に暮らしていける彦名町を目指す。

申請団体 4

福生東12区自治会

事業名

福生東12区自治会オリジナル安否確認カード普及事業

事業概要

自治会オリジナルの安否確認カードを作成、全住民に配付し、安否確認訓練等を行うことで防災意識の向上と自治会への理解を深める。

《内容》

- ・集合住宅が多く自治会加入率が低い地区であるため、自治会未加入者を含めた安否確認訓練等を行っていく。

- ・今回活用する安否確認カードは字を大きくする、自治会の案内の掲載などオリジナルなものを作成し、活用する。
- ・以前は、子ども会活動等でつながりがあった集合住宅の方々も、コロナ禍の影響で行事がなくなり、つながりが薄れてしまった。今回の取組でもう一度つながりを作っていきたいと考えている。
- ・最終的には集合住宅の管理会社にも協力いただいて、安否確認カードや自治会加入促進チラシを配付、自治会活動への参加促進を図っていく。

申請団体 5

明道婦人の会

事業名

e スポーツでフレイル予防そして世代間交流

事業概要

若者世代が関心の深いe スポーツを若者から学び、実践することで世代間交流を深め、高齢者は楽しみながらフレイルや認知症予防に取り組み、仲間作りや心身の機能向上を目指す。

《内容》

- ・明道婦人の会は今年創立 70 周年を迎える。まちづくり活動支援交付金事業を活用して、米子南高校の生徒に協力いただき、e スポーツを活用したフレイル予防、世代間交流につながる事業を行いたいと考えている。
- ・婦人の会の構成員は 70、80 代が多く、通常の運動が難しい。そのため、e スポーツに取り組みでいきたい。e スポーツは得点が出るため達成感も得られやすく、認知症にも効果的という話がある。
- ・ねんりんピックの種目にもなっており、出場出来るように取り組んでいきたい。
- ・ソフトは今回の交付金で購入し、機器本体は当面の間借りる予定としている。今後バザー等で収益を挙げ、婦人の会として今年度中に機器本体を確保し、継続的な活動としていきたい。

申請団体 6

子どもの人権広場

事業名

地域の子育て環境を向上させるための講演会やアンケート実施

事業概要

地域における子育ての環境を向上させ、それぞれの子どもにおける最善の発達・発育を保障していくことを目的に、子どもに関わる多くの人を対象とした発達障害に関する講演会や、保育士等を対象としたアンケートを実施する。

《内容》

- ・当会は発達障害の理解を広め、子どもの人権を学習や生活の中で保障する活動と、脳が最も成長する乳幼児期の保育の質を向上させる活動を行っており、今回の交付金では講演会、保育等の質の向上に関するアンケートを実施したいと考えている。
- ・子どもの居場所活動に参加される方の多くが、発達障害と診断を受けていたり、診断は無くても困難さを持ちながら生活している方が非常に多く、いじめや不登校の原因としても考えられることから、発達障害や発達特性、そこから来る困りごとを正しく理解して行くことが、差別や偏見をなくし、子どもたちの成長や学びを助けるために不可欠と考えている。

- ・講演会では、発達障害を正しく理解し、子どもに向き合うヒント等を伺いながら、子ども達と向き合う心構えを一緒に考えていきたい。
- ・保育の現場では、保育士の成り手不足が深刻化し、通園バスの置き去りによる死亡事故や保育士による虐待など悲惨な状況も生まれている。配置基準の見直しが国レベルで始まりつつあるが、この動きをより進めるために、保育などの現場で働く方々の実情をアンケート調査で把握し、子どもたちの保育環境の改善に繋がりたいと考えている。

申請団体 7

青風の会

事業名

五千石地区における次世代地域担い手育成事業

事業概要

五千石地域の各種行事やイベントに、10代・20代の青少年のボランティア活動に参加することを通して、地域の次世代の担い手を育成する。

《内容》

- ・4年ぶりに再開されたつつじまつりで、五千石地域の10代・20代の青少年を中心にボランティアスタッフ組織「青風の会」を結成した。地域からは、つつじまつりだけでなく、五千石地区の行事やイベントでも活躍してほしいという声を受け、本事業の計画に至った。
- ・五千石地域の各種行事やイベントに、10代・20代の青少年がボランティアとして参加することを通して、地域の次世代の担い手を育成するとともに、地域との繋がりを深め、人間関係を構築し、地域の良さや地域の魅力を再確認し、次世代の担い手としての自覚を促す。地域としても若手が参加することで、さらなる地域の活性化を図ることができる。
- ・現在は、中学生から24歳までのメンバーがいるが、共通のTシャツを着用することで、自身が青風の会の役員であり、地域での役割を担っているという認識を持ってもらい、世代をこえて顔の見える関係づくりを行っていききたいと考えている。

申請団体 8

青少年社会生活支援団体 Amazing!

事業名

アメージングスクール放課後クラブ「宿題+パステルアート教室」

事業概要

子供達の学校放課後、公民館を利用して、異年齢・異学年・多世代間の学習・交流の場として、「宿題+パステル教室」を開設して、子供達の居場所の選択肢を増やすとともに、大人の公民館の活動が生涯学習ボランティアとして、子供達への芸術文化伝承活動に活かされていく仕組みやきっかけづくりにする。

《内容》

- ・学校が5日制となって以降、土日を中心に社会教育の場を提供してきたが、今回は平日の放課後に活動の場を提供したいと考えている。
- ・以前から、平日の放課後に活動の場を提供したいという思いはあったが、実行可能な内容がなく、人材がいなかった。今回協力していただける方が現れたため、平日の放課後に活動の場を設定することができた。
- ・アメージングスクールの教室は、子ども達にとって学校教育以外のスポーツや文化を体験、学習出来る場であり、異年齢の交流の場、発表の場として期待出来る。

- ・指導者にとっては、生涯学習ボランティアとして自身の学習を社会還元できる場、自己実現を出来る場、指導者同士のコミュニティ形成の場となると期待出来る。
- ・長年継続してきた結果、教室に来ていた子ども達が大人になって、子ども達に教えるような活動も出てきている。
- ・大人から子どもへのいい学習循環ができることが生涯学習のまちづくりにつながる。
- ・これがきっかけとなり、子ども達にいい学習循環が提供出来る仕組み作りが出来ればと考えている。

【審査結果】

◇審査結果

申請のあった8団体の事業をすべて「採用（交付金の交付）」と判定した。

◇交付金の交付に当たっての審査会からの付帯事項

(温泉三区自治会)

- ・特になし

(米子ジャズ実行委員会)

- ・特になし

(彦名校区自治連合会)

- ・特になし

(福生東12区自治会)

- ・他地区の模範となる先駆的な取組となるように事業を実施すること。

(明道婦人の会)

- ・次年度以降も継続した取組とすること。

(子どもの人権広場)

- ・特になし

(青風の会)

- ・他地区の模範となるように、若い世代が集まりやすい環境を整え、継続的に事業に取り組むこと。

(青少年社会生活支援団体 Amazing!)

- ・特になし